

「帯広市親子防災講座」

取り組みの概要

帯広市と帯広市PTA連合会の共同で、気象庁帯広測候所などの協力・後援を受け、実行委員会を設立して運営しています。実行委員会は、市P連役員、市総務部・学校教育部・生涯学習部の各関係職員、気象庁帯広測候所職員及び十勝総合振興局の関係職員並びに防災マスターなどの16名により構成され、その事務局を市総務課に置き親子防災講座の企画・準備・運営をしています。同事業は、市より実行委員会に負担金として実施経費を支出し、運営しています。

協働の きっかけ

高齢化や社会環境の変化などから町内会を中心とした地域のコミュニティ活動が停滞する中で、これまで町内会を対象にして進めてきた住民の防災意識づくりの取り組みだけでは限界があるという認識のもと、住民への防災意識の啓発・浸透を図る上での新たな展開が必要と考えました。

総務課防災係 (実行委員会事務局)

・安心・安全な地域づくりに資すること。

・企画・運営協力
・講師調整など



帯広市親子防災講座 実行委員会

・児童・生徒を介して、子育て世代の防災意識の高揚を図ることにより、地域における自主防災活動への参加や活動の活性化を促す。

・講座の企画、運営、会計など

強み

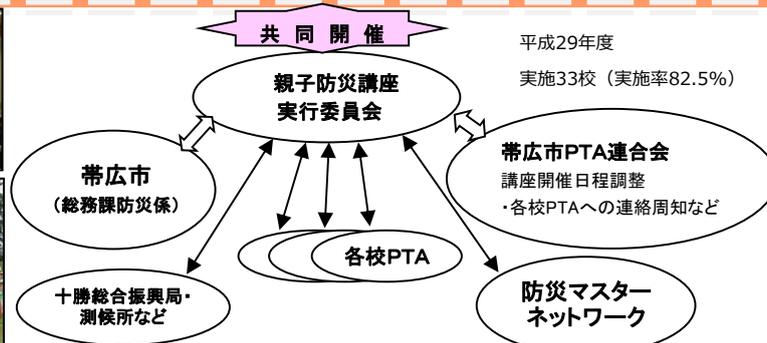
役割

協働の 成果

本講座の実施により、児童・生徒の保護者から防災の重要性及び講座継続の必要性が認識され、次に繋がる（今回は「地震」、次は「水害」などの様に）積極的かつ建設的な発言があり、防災に対する意識づくりが少しずつ浸透してきています。

協働のポイント

市内各小・中学校40校全ての実施に向け、更なる「効果的な情報発信」を行っていく必要があります。



地域防災訓練

取り組みの概要

災害に強いまちづくりの基本である「自らの命は自ら守る」の観点から、避難所ごとの住民、防災関係機関等が一体となり地区連合町内会と共催で実施しています。初期消火や応急手当、炊き出しなど、災害時に必要となる様々な活動の訓練を行います。

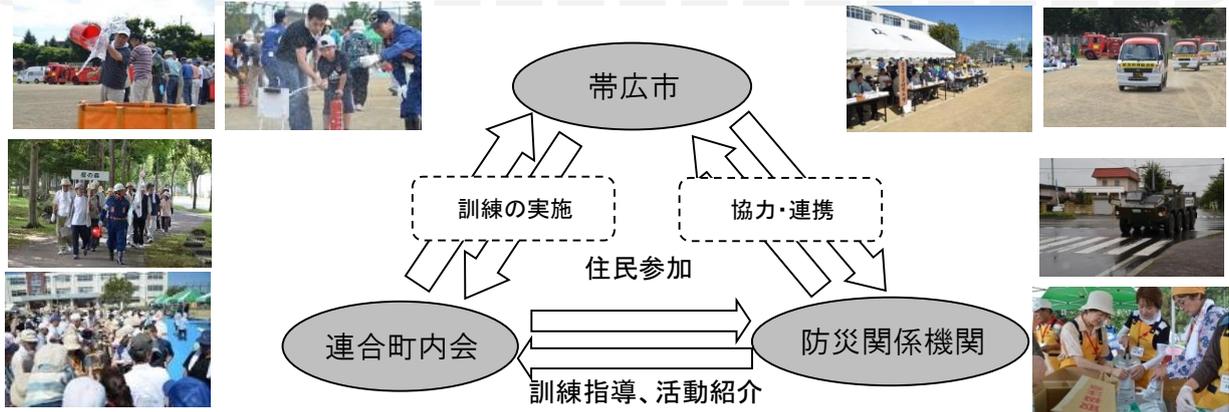
協働のきっかけ 平成 5 年 1 月 1 5 日に発生した釧路沖地震（M7.8、帯広市震度5）を教訓に、住民参加型の防災訓練として 8 月 3 0 日～ 9 月 5 日の防災週間に合わせて実施しています。



協働の成果 避難訓練、初期消火訓練、応急手当訓練等、住民参加型の訓練を行うことにより、災害に役立つ知識・技術を習得し、地域における自主防災組織の活動を推進することができます。

協働のポイント

幅広い年代層へ十分な周知を行い、若年層も含めた多くの参加を促します。



自主防災組織の育成

取り組みの概要

大地震などによる災害から身を守るのは個人の力では限界があり、また、行政がすぐ対応できるとは限りません。こういう時こそ頼りになるのは、隣近所や町内会など地域に住む人々による自主的かつ組織的な防災活動です。そのため、災害時に地域住民の連携による円滑な応急活動が実施できるよう、防災組織を設置します。

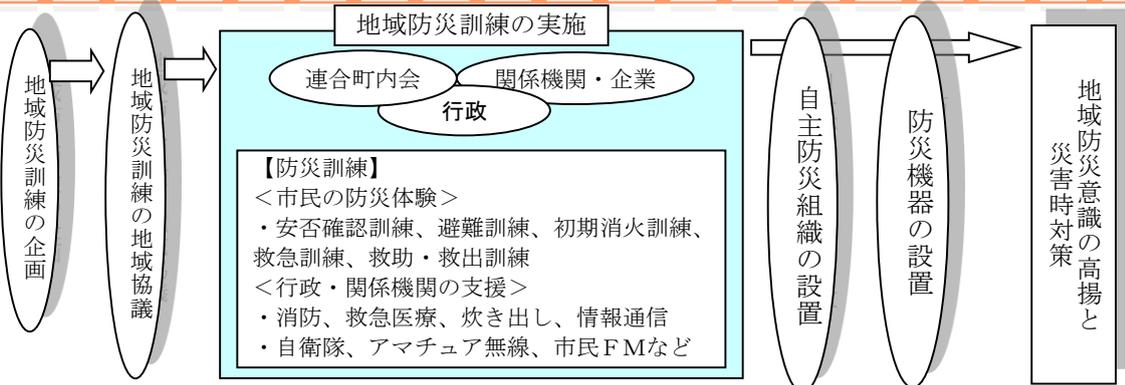
協働のきっかけ 阪神・淡路大震災をきっかけとして、地域ごとの防災意識の高揚と防災対策を行うために、地区連合町内会との共催で地域防災訓練を実施し、これを契機に自主防災組織の設立を促進しています。



協働の成果 防災を目的に地域が主体となり、企業や行政が連携・協力する協働の大切な取り組みとなっています。（平成30年3月現在では26連合町内会が自主防災組織を設置しており、単位町内会でも設置及び取組が進んでいます。）

協働のポイント

「自助」「共助」「公助」の必要性を認識し、それぞれが必要な役割を果たすことが必要です。



『おびひろ救命アシスト事業』

取り組みの概要

自動体外式除細動器（AED）を設置しており、かつ応急手当（胸骨圧迫や人工呼吸、AEDを使用した除細動など）を実施することができる従業員が複数勤務している施設に対し、協力証（ステッカー）を交付、表示し、従業員や通りがかりの市民等がAEDを活用した応急手当を速やかに行うことができる環境を作ります。市民等による迅速な応急手当と救急隊による処置の連携により、救命率の向上を図り、安心・安全な街づくりを目指します。

協働の きっかけ

救命率の向上を図るためには、バイスタンダー（救急現場に居合わせた人）による応急手当が必要不可欠なため、AED設置やバイスタンダー養成などの環境づくりが重要です。また、施設にAEDが設置されており応急手当を実施することができる従業員がいることを示すことは、施設にとってもお客様に安心・安全を提供することができます。

救急課

- 1 救命率の向上
- 2 応急手当に対する市民意識を向上させ、バイスタンダーの養成拡大を推進させる。



不特定多数の人が出入りする施設

AEDがあり、応急処置ができる従業員がいるということを示すことができ、安心・安全な施設であることをお客様に伝えることができる。

強み

- 1 応急手当に関する相談受付、再講習案内、特異事例や救命事例などの情報提供、事業の進捗状況の情報交換等、救急救命協力施設をサポート。
- 2 普通救命講習の受講希望者が10～14名いる場合、出前による講習にも対応。

役割

従業員や通りがかりの市民等に対して、AEDを活用した応急手当を速やかに行うことができる環境を提供する。

協働の 成果

平成29年12月31日現在の救急救命協力施設は356件となりました。これまでの取り組みで施設のAEDが使用され、市民が協働で応急手当を行ったことにより、5名の方が救命されています。

< 交付要件 >

1. AEDを設置していること。
2. 普通救命講習受講済みの勤務者が複数いること。
3. 営業、または公開時間中に、勤務者や通りがかりの市民等、だれもが設置されているAEDを活用した応急手当が速やかに行える環境にあること。

< 救急救命協力施設証の交付事業 >

おびひろ救命アシスト事業に参加される事業（施設）所には、出入口などに表示する「救急救命協力施設」を証するステッカーを交付いたします。



防火ぬりえ展

取り組みの概要

年末焼死事故防止運動期間中に市内の幼年消防クラブを結成している幼稚園等に防火ぬりえの作成を依頼し、多くの市民が集まる物販店等で展示します。

協働の きっかけ

幼年期に“ぬりえ”を通して防火にふれあうとともに、市民が多く集まる場所に展示し、防火意識の高揚を図ることで、「災害のない安心・安全なまちづくり」を目指すものです。

市消防局指導課

・災害のない安心・安全なまちづくりを目指す

・市内43箇所の幼年消防クラブに防火ぬりえの台紙(A0・A1版)を配布する
・完成した作品を回収後、多くの市民が集まる物販店等で展示する。



幼年消防クラブ

・幼年時に火災予防に対する意識を根付かせる

・自由な発想で防火ぬりえを作成する

強み

役割

協働の 成果

展示会場の鑑賞者も多く市民に対する防火意識の高揚に一定量効果が得られました。

協働のポイント

更に多くの市民が訪れ、防火意識の高揚が図られるよう展示場所や事業の内容等について、常に見直しを行い、マンネリ化することのないよう努める必要があります。

【消防】 市内43箇所の幼年消防クラブに防火ぬりえの台紙(A0・A1版)を配布する。

↓

【市民】 それぞれが防火の願いを込め、自由な発想で防火ぬりえを作成する。

↓

【消防】 完成した作品を回収後、多くの市民が集まる物販店等で展示する。

↓

【市民】 家族等が我が子の作品を鑑賞するほか、他の要件で訪れた市民も自然と目にする。

↓

市民の防火意識の高揚

↓

災害のない安心・安全なまち

乳がん予防月間「ピンクリボンinおびひろ」

取り組みの概要

昨今関心が高い女性特有のがんである「乳がん」を中心に、がん検診やがんの早期発見の重要性等を普及啓発することを目的に、市、各医療機関、企業等の関係機関のそれぞれが取組をしています。

その取組の情報共有や周知等について連携協力して発信し、市民のがん予防に対する機運を高めていくことを目標として、平成28年度より乳がん予防月間として、啓発イベントの実施、ホームページでの啓発等を実施しています。

協働の きっかけ

帯広市民の健康課題であるがんの予防対策について、医療機関や企業等と情報共有や意見交換をする機会がきっかけとなり、それぞれの目標や取組を共有し、発信することで大きな意識の啓発になることを目的として、平成28年度から開始しました。

健康推進課

- ・情報収集、発信力
- ・関係機関との調整

- ・ホームページやSNS, パネル展の開催、啓発媒体の配布、関係機関との調整など



医療機関・企業・関係機関

- ・多様なニーズへの対応
- ・関係機関ごとに異なる多様なサービス内容

- ・取組の企画・実施、情報提供
- ・情報交換等

強み

役割

協働の 成果

乳がん予防に限らず、市民の健康づくりのための「がん予防」について、関係機関等と課題を共有し認識を高める機会となっており、今後の連携協力により一層市内のがん予防に関する周知や啓発が充実すると考えています。

協働のポイント

- 乳がん予防月間を利用した（10月）発信
- 年間を通じ関係者間の情報共有や意見交換の



パネル展：市民ホール



ナカジマ薬局がん検診勧奨



イトヨーカドー職員対象の乳がん予防キャラバン

おびひろ健康まつり

取り組みの概要

健康づくりと健康管理の重要性について理解と関心を深めてもらうことを目的に、幼児から高齢者までが楽しく学べるイベントを、健康増進普及月間である9月の第1日曜日に毎年開催しています。

イベントの内容は、健康に関する講演、検査体験コーナー、試食コーナー、展示コーナーなど、参加者が自分の健康をより身近に感じてもらえるものを企画しています。

協働の きっかけ

旧総合福祉センターの開設をきっかけに開催がはじまり、現在の保健福祉センター移転後も継続しています。

健康推進課
子育て支援課 国保課



帯広市医師会、十勝歯科医師会、北海道薬剤師会十勝支部、北海道看護協会十勝支部、十勝臨床衛生検査技師会、北海道栄養士会十勝支部、帯広市食生活改善推進員協議会、帯広市健康づくり推進員の会

・関係課ならではの様々なノウハウ

強み

・各専門分野の知識、技術がある。

・各コーナーの企画、運営。
・事務局としての庶務。

役割

・各コーナーの企画、運営。

協働の 成果

市民が自身の健康について意識するきっかけとなり、健康に関する知識の向上、健康づくりのための行動の実践につながっています。

協働のポイント

各団体と行政のそれぞれの専門分野を活かしたイベントを企画しています。



ランチ&運動つき健診教室

取り組みの概要

1日のうちに健診受診から、肥満や生活習慣病予防のための減塩・栄養バランスの試食と栄養学習、手軽な運動をセットで体験できる教室です。ボランティアである食生活改善推進員協議会、健康づくり推進員の会の協力により実施します。

協働の きっかけ

平成18年度の医療制度改革において、平成20年度より開始のメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)に着目した特定健康診査・特定保健指導に伴い運動した事業で、過食、運動不足によって引き起こされるメタボリックシンドロームの該当者、予備群の減少と生活習慣病予防、受診率向上を目指します。

健康推進課



食生活改善推進員協議会 健康づくり推進員の会

啓発する人が参加者にとって身近な存在であるため、実践しやすいと思わせることができる

強み

参加者の喜びの声により、充実感を得ることができる

- ・日程調整
- ・参加者募集

役割

- 【食生活改善推進員】
- ・献立作成、調理指導、栄養講話
- 【健康づくり推進員】
- ・運動メニュー考案、運動指導

協働の 成果

- ・市民(食生活改善推進員、健康づくり推進員)は、自ら研修を何度も重ね、内容の充実に努めています。
- ・参加者からの喜びの声により、両団体は、今まで以上に市民の健康づくりへのパイプ役として意欲を高めています。

協働のポイント

食生活改善推進員、健康づくり推進員の活動が広がり、活動の人数が不足しているため養成、育成の充実を図ります。

特定健診・がん検診受



食生活改善推進員
栄養講話、調理指導



健康づくり推進員
運動体験



健康づくりの意識の高揚



地域交流サロン事業

取り組みの概要

地域のボランティアの方々が主体となって、市内各コミセン・福祉センターなどを利用して運営しています。高齢者や障害者、育児中の親子など地域の方々が、定期的に気楽に集まって、おしゃべりやゲーム、体操などを楽しむことにより、地域での孤独感を解消するほか、住民の相互交流を図り、地域の絆を深めるものです。平成29年度は、市内に30ヶ所、月2～4回開催されています。

社会福祉協議会が設立・運営のサポートをしているほか、会場費などの助成を行っています。帯広市はその事業に対し一部補助金を出しています。

協働の きっかけ

少子高齢社会の進展と核家族化の進行により、地域の住民同士のつながりが希薄化し、特にひとり暮らしの高齢者などが地域で孤立するケースが増加しているなか、高齢者等要援護者の孤立を防ぎ、地域とのつながりをつくるとともに、要援護者を地域が把握し、地域で見守ることを目的として、地域のボランティアが集まりスタートしました。

社会課

・市内各コミセン・福祉センターなどを提供できる

・事業に対する一部補助金の支給



市民、社会福祉協議会

・要援護者の把握ができる
・高齢者等要援護者の孤立を防ぎ、地域とのつながりをつくる

・設立・運営のサポート
・会場費などの助成

強み

役割

協働の 成果

引きこもりがちなひとり暮らしの高齢者が気楽に参加し、孤独感の解消につながっています。また、地域での見守りの機能を果たしています。

協働のポイント

障害者や育児中の親子の参加を促すこと、市内全域に拡大していくことなどが課題



認知症高齢者見守り事業（認知症サポーター養成講座）

取り組みの概要

認知症に対する正しい知識をもつ人を1人でも増やすため、地域や職域で認知症サポーターを養成することにより、認知症の人や家族が安心して暮らしていただける地域づくりを推進します。

協働のきっかけ

高齢化が進み認知症の人が急増しているなか、認知症を理解し認知症の人や家族を温かく見守り支援する人をつくる「認知症100万人キャラバン」が平成17年度からスタートしたことをきっかけに、帯広市でも、それまで行なっていた認知症の普及啓発と併せて、認知症サポーター養成講座をスタートしました。

サポーターのなかから地域のリーダーとして、まちづくりの担い手が育つことも期待されます。



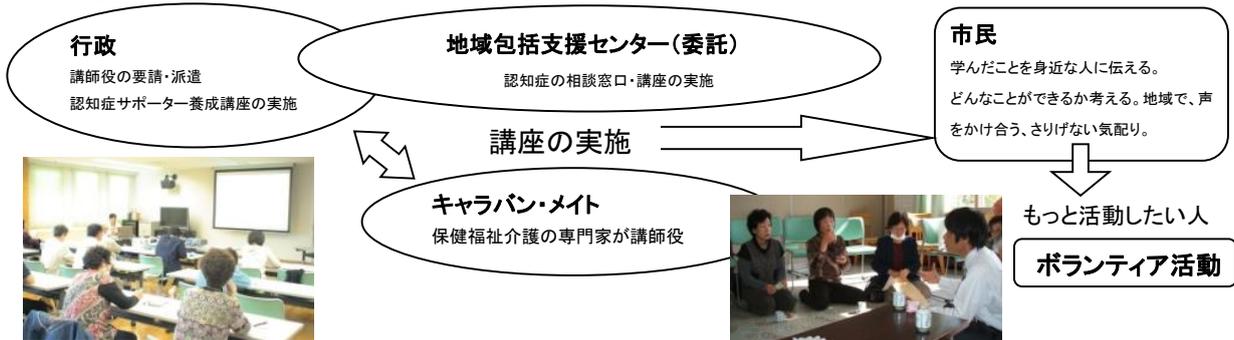
協働の成果

全国キャラバンメイト連絡協議会のまとめでは、全国で認知症サポーターが800万人を超えていると報告がされています。帯広市でも13,000人を超え、今後も毎年サポーターを増やしていく予定です。

協働のポイント

更に多くの市民、幅広い年代や団体にPRが必要です。サポーターとして活動したい人の活動展開・方策について、具体的な検討が必要です。

特に認知症サポーターには何かを特別にやってもらうものではありません。認知症を正しく理解してもらい、認知症の人や家族を温かく見守る応援者になってもらいます。



認知症高齢者見守り事業 (認知症・家族の集い「茶話会」)

取り組みの概要

介護者同士が交流できる場づくりをすることにより、介護疲れを癒したり、介護のヒントや生きた情報が得ることができる。また、認知症の相談窓口の職員と接点をもつことにより、認知症の人や家族が、地域で穏やかに暮らし続けられるよう、つながりをもつことができます。

協働の きっかけ

認知症の人と家族の会（全国組織）十勝支部が休止中であり、認知症の家族同士が交流したり相談できるところがありませんでした。
行政と地域包括支援センター(委託)で、介護者交流の場が必要と考えていたところへ、地域交流サロン立ち上げの中心メンバーや介護者の会の代表等から協力したいとの声があったことがきっかけです。

高齢者福祉課



市民（介護経験者等） 関係機関

行政ならではの発信力

強み

知識や経験が豊富

・地域包括支援センターへの連絡、
会場の手配、周知協力

役割

【市民】・当日スタッフとして運営
【委託先】・相談対応、交流支援

協働の 成果

参加された介護者のアンケート結果では、「同じ立場の人と話せて、心が軽くなった。」「また、明日からの介護を頑張れそうです」などの意見があり、帰り際には優しい表情で帰っていかれる方が多いです。市民同士がお互いの連絡先を交換する場面も見られ、平成23年度からは茶話会を継続的に月1回行うことになりました。介護経験のある市民、地域包括支援センターが中心となり実施しています。

協働のポイント

介護経験者等の協力者の募集や学習、運営、周知面での後方支援・認知症サポーターの活用等について検討が必要

背景(平成22年度まで)

(平成23年度から)

茶話会の企画会議

茶話会の実施
当日の運営

継続しやすい体制づくり
今後へ向けての話し合い

市民:介護経験者等が参画
介護者同士の交流時、傾聴、助言
地域包括支援センター
:「茶話会」のイメージの企画、周知用チラシの作成
関係機関:助言、技術支援



市民:当日スタッフとして運営
地域包括支援センター:
認知症の相談受理、交流支援
行政:委託先への連絡、会場の手配、
周知協力

ノーマライゼーション・エリア推進事業

取り組みの概要

障害のある人もない人も、子どもや高齢者まで、すべての人がともに生きることのできる社会を実現するため、市内の4つのエリアをノーマライゼーション推進地区に指定し、それぞれの地区が独自にPR用立て看板やのぼりの設置、啓発用チラシやパンフレットの作成、地域のまつりやふれあい交流事業などにより、ノーマライゼーションの理念の地域定着を図っています。

協働の きっかけ

障害や障害のある人についての正しい理解を深めるため、市民の意識啓発や交流会を拡大し、ノーマライゼーション理念の定着を図り、「人にやさしいまち」「人がやさしいまち」の実現を目指します。

障害福祉課



大正、大空・南の森、東部、西帯広
各地域のノーマライゼーション推進協議会

障害者理解の促進に関する啓発、市民周知

強み

ノーマライゼーション理念の定着

・推進事業地域への補助、4地域意見交換会の実施

役割

・地域主体の理念の普及・啓発、交流事業の展開

協働の 成果

ノーマライゼーション推進事業地区それぞれの創意工夫による意識啓発や交流機会の拡大が、長期に継続されていることにより、ノーマライゼーション理念が地域住民に浸透されています。

協働のポイント

ノーマライゼーションの理念が、徐々に市内全域に波及され、ひとにやさしい、ひとがやさしいまちづくりの意識の高揚が図られるよう、事業を推進していきます

- ★地域住民 ⇒ 事業への参画
- ★推進協議会 ⇒ 地域主体の理念の普及・啓発、交流事業の展開
 - 主な事業
 - ・啓発用立て看板の設置
 - ・推進地区PR用のぼりの設置
 - ・理念の普及啓発、チラシ・パンフレットの作成
 - ・まつり等ふれあい交流事業の実施
- ★行政 ⇒ 推進事業地域への補助、4地域意見交換会の実施



帯広ファミリーサポートセンター事業

取り組みの概要

この事業は、帯広市がファミリーサポートセンターを設置し、子育てをサポートしてほしい人（利用会員）と、子育てをサポートしたい人（提供会員）が会員登録し、会員同士の信頼関係をもとに行う会員相互による子育ての援助活動です。
 利用するには、事前の会員登録（無料）が必要です。

協働の きっかけ

平成22年3月策定の「おびひろこども未来プラン」において基本目標である「安心して生み育てられるしくみをつくる」の主要事業のひとつとして、市民相互による子育て支援の援助を図り、安心して子育てができる環境づくりに資することを目的に、平成25年9月より帯広ファミリーサポートセンター事業を実施しています。

子育て支援課

**市民、
委託先（NPOふれいおん・とかち）**



- ・行政ならではの情報発信力。
- ・地域で子育てを支え合う環境づくり。

- ・子育てに関する知識が豊富。
- ・企画力や行動力がある。

強み

- ・赤ちゃん訪問、乳幼児健診、地域子育て支援センター等での事業説明とチラシの配布。
- ・ホームページ、すこやかネット等による情報発信。

- ・会員登録と説明会の実施
- ・研修会、講演会、交流会の企画・運営

役割

協働の 成果

既存の保育施設等が実施している地域住民と連携した労働形態の多様化への対応、仕事と子育ての両立、女性の社会進出への有効な支援策として期待できます。

協働のポイント

提供会員の資質や質的向上のため講習会の開催にあたっては、他市の状況や受講者のアンケート結果をみながら、カリキュラム内容・実施方法を工夫していきます。

利用会員

- 子育てをサポートしてほしい人
- 対象：帯広市に在住している方で、生後57日以上小学校6年生までのお子さんの保護者の方。
- 登録：ファミリーサポートセンターが実施する説明を受け登録します。
- 登録料は無料。

提供会員

- 子育てをサポートしたい人
- 対象：帯広市に在住している方で、自宅等で安全に子どもを預かることができる20歳以上の方。
- 登録：センターが実施する講習会を受講後、援助活動が始まります。
- 登録料、講習会受講費は、調理実習費のみ

両方会員

- 子育てをサポートしてほしいし、サポートもしたい人



地域の高齢者や異年齢児との交流

取り組みの概要

高齢者のグループや、小中学生・高校生ボランティア、地域住民などが気軽に保育所を訪れ、園児と触れ合うことで異世代の人々が交流する機会を設けます。

協働の きっかけ

地域全体で子どもを見守り、育てていくという意識が希薄になってきている中で、子どもが異世代の人々と触れ合う機会が減少してきています。
高齢者や小中学生・高校生をはじめ、地域のあらゆる年代層の方が気軽に保育所を訪れ、園児と交流することを通じて、地域全体で子どもを育てるという意識を醸成するとともに、保育所のさらなる活用を目指します。

こども課

・地域全体で子どもを育てるという意識を醸成することができる

・保育所が、地域に対してより開かれた存在であるために、分かりやすい情報提供に努める



市民（高齢者や小中学生・高校生など）

・異世代の人々と触れ合う機会がふえる

・保育所行事への参加や訪問

強み

役割

協働の 成果

高齢者からは、昔の遊びの伝承や社会参加に対する喜びの声が聞かれています。また、これからの世代を担う小中学生・高校生にとっては、実際に子どもたちと触れ合うことで、幼い子どもを慈しむ心が醸成されるとともに、将来の子育てへの希望を持てるという効果が期待されます。保育所の園児にとっても、異世代と触れ合うことにより社会性等を涵養する大切な機会となっており、双方にとって良い刺激になっています。

協働のポイント

地域の実情を理解し、保育所に対するニーズを把握するためにも、地域の声を聞くことが重要になっています

- ①高齢者ボランティアグループや、老人クラブの方々の、保育所行事への参加や保育所への訪問。
- ②小中学生・高校生ボランティアの保育所園児との交流。
- ③地域住民の保育所地域活動への参加。

高齢者、小中学生、
高校生、地域住民

相互交流

保育所園児

子育て応援ボランティア登録

取り組みの概要

子育てに関心のある地域の方々に、子育て応援ボランティアとして、子育て支援課、地域子育て支援センター、保育所、幼稚園に登録していただき、それぞれの得意分野を活かした活動をしてもらいます。保育所や地域子育て支援センターで実施している「あそびの広場」等には、見守りボランティアや手作りボランティア、読み聞かせボランティア、人形劇ボランティア、畑のボランティアなど、H30/3月現在161名、15団体の方が登録しています。

協働の きっかけ

多様な価値観と、氾濫する育児情報のなかで、育児不安を抱き地域社会からも孤立しがちな母親たちを身近にサポートできる人材を募り、次代を担う子どもたちが健やかに育つために、行政と市民とが協働して地域での子育てを見守り応援していきます。ボランティア登録者の方々の主体性を尊重し、充実した意義ある活動をしていただくためにも、それぞれの得意分野を活かした登録となっています。

子育て支援課

- ・行政ならではの情報発信力。
- ・地域で子育てを支え合う環境づくり。

- ・ボランティアの登録。
- ・登録者の情報提供。



市民（子育てボランティア）

- ・それぞれの得意分野を活かした活動ができる。
- ・取り組みを通して異世代交流ができる。

- ・地域子育て支援センター、保育所、幼稚園での行事や「あそびの広場」等への参加。

強み

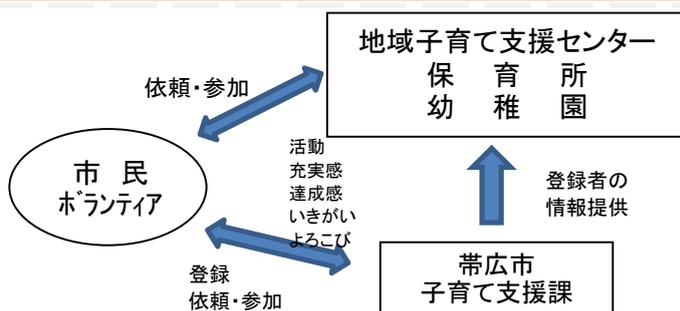
役割

協働の 成果

登録者の意思、意欲を尊重し、活動希望を取り入れることで、ボランティアの方からは、生きがいや社会参加の喜びの声が聞かれます。様々な世代の地域の方々が参加することで、利用者、ボランティア、保育者を含めた交流があり、相互に学びがあります。

協働のポイント

より地域性を高めるために、各保育所に地域の方々がボランティア活動に参加できるように働きかけていきます。



絵本との出会い事業

取り組みの概要

乳児と保護者が絵本を介して、親子で向き合い、触れ合いを深めるために、乳幼児健診を活用して、絵本との出会いや親子で交わすことばの大切さや必要性を伝えつつ、絵本をプレゼントしています。また、「本に対する関心を高め、ブックリストの活用や図書館利用への誘導」なども推進しています。

協働の きっかけ

ブックスタート検討時、帯広市としては、絵本の配本目的ではなく子育て支援の視点を持った事業として位置付けました。また「地域で子育てを支えるまちづくり」の視点から、事業実施をボランティアですすめ、5か月児健診の場で、絵本の紹介と絵本をとおして育てられる力を伝えます。

子育て支援課

- ・乳幼児健診の場の提供。
- ・行政ならではの情報発信力。

- ・ホームページやすこやかネット等での情報発信。
- ・ボランティア登録の窓口



絵本との出会い事業 ボランティアの会ゆりかご

- ・絵本の読み聞かせの知識が豊富。
- ・絵本の読み方や紹介など親のニーズに対応できる。

- ・絵本の紹介と読み聞かせを通して保護者が絵本を選ぶ手伝い。
- ・図書館の紹介

強み

役割

協働の 成果

ボランティアを中心に実施しながら内容の精査を行い、工夫検討しながら活動を行っています。平成29年に1歳6か月児健診を受診する保護者を対象に実施したアンケート調査の結果、この事業が「絵本の読み聞かせをするきっかけになった」と「すでにしていた」と回答した方を合わせると92.2%あり、この事業の成果は大きいと考えます。

協働のポイント

体制を維持するためにボランティアの増員と、さらなるスキルアップを目的に研修を行っていく必要があります

<登録ボランティア活動の流れ>

配本準備
会場設営
受け付け
誘導
読み聞かせ
片付け
反省会実施

この他、年一回の交流会、研修会を実施しています。

<子育て支援課>

ボランティアの登録窓口



帯広市子ども110番の家

取り組みの概要

小学校通学路を基本に周辺の住宅や事業所などの協力を得てのぼり旗等を設置し、子どもたちの身の安全を守り、被害の未然防止や早期解決の手助けを行っています。また、毎年1回、事業協力者に対し継続の可否やのぼり等の交換の有無、駆け込み実績について調査を実施しています。

協働の きっかけ

H13.6.14教育長宛に帯広市地区防犯協会連合会から協力要請があり、H13.7.31教育委員会関係3課で事業取組み打合せ（学校教育指導室、青少年センター、女性青少年課）H13.8.27実施要領の作成。防犯協会、市P連、青連協、市教委で役割分担、H13.9.1子ども110番の家スタート。

青少年課・安心安全推進課
学校教育指導室



帯広市防犯協会・帯広市PTA連合会
帯広市青少年育成者連絡協議会
帯広市退職校長会帯広支部

・小学校を核に地域ぐるみで子ども110番の家の取組みをすることができる

強み

・地域の防犯意識の向上を図る

・パートナーや各小学校との連携（調査結果の報告など）

役割

・調査の実施・結果の報告
・調査結果に基づきのぼり等の配布

協働の 成果

・ H27年度 1,110件設置 ・ H28年度1,102件設置 ・ H29年度1,077件設置

協働のポイント

協働事業を行なう上でのポイントを分かりやすく記入してください。



野草園の管理運営

取り組みの概要

野草園は市民の散策や小中学生等の理科教育・自然観察の場として、昭和33年7月6日開園しました。都心部にある野草園としては全国的にもめずらしいものであり、良好な自然をそのまま保全する形で整備し、園内の自然環境の保護に努めています。また、学識経験者による野草園運営委員会が運営協力を担っています。

協働の きっかけ

野草園の開園に伴って、市内の教職員や学識経験者などからなる野草園運営委員会を設置し、貴重な自然環境の保護と教育機能の利活用を図ることとなりました。運営委員会は、野草園に関する調査、研究または資料の収集を行うとともに、運営協力として開園の集い(4月)、野草園の花作品展(7月～8月頃)などを実施し、市民利用の促進を図っています。

児童会館



帯広市野草園運営委員会

・行政ならではの情報収集・発信力

強み

・自主的な活動による専門知識や経験が豊富

・ホームページやSNS、ポスター掲示等の情報発信、情報交換など

役割

・野草園に関する資料の調査・収集
・広報紙「くろ百合」の発行 など

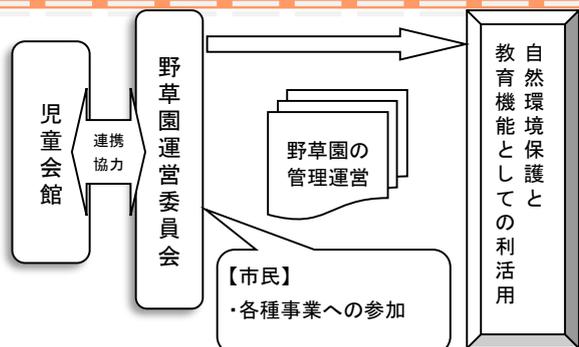
協働の 成果

- ・植生調査など継続的な調査活動を実施し、野草園の現況や経過観察資料の蓄積に協力しています。
- ・各種行事や作業を通じて運営協力をを行い、市民利用や市民協力の促進に貢献しています。
- ・「くろ百合」を発行し、野草園の季節情報や来園者の声など情報発信活動を行っています。

協働のポイント

委員の高齢化・学識経験者に偏らず、幅広い市民参加の形態やボランティアの組織化の検討も必要

- 【管理運営内容】
- ・野草園に関する資料の調査・収集及び研修活動
 - ・開園前準備としての、園内の清掃奉仕
 - ・「野草園の花観察会」や「野草園の花作品展」への協力
 - ・広報紙「くろ百合」の発行
 - ・閉園作業の協力



馬文化承継事業

取り組みの概要

北海道開拓の時代に、暮らしに根付いていた人々と農耕馬とのつながりを、後世へ伝えていくため、ばんえい競馬きゅう舎関係者の協力の下、市内の保育所やイベント会場等で、ばん馬とふれあう機会を提供しています。

協働の きっかけ

平成19年度に帯広市単独開催となったばんえい競馬を広くPRするため、競走馬を引退したリッキー号が帯広市特別嘱託職員に任命されました。その後、ミルキー号とキング号が加わり、現在は3頭のばん馬がふれあい等の広報活動を行って

ばんえい振興室

・関係課、保育所、小学校、他自治体、NPO法人等関係機関との情報交換

・ばん馬の派遣申請の受付、スケジュール管理、調教師への連絡



ばんえい競馬きゅう舎関係者

・ばん馬に関する知識や経験が豊富

・ばん馬とのふれあい（馬車、馬そりの運行等）を実施

強み

役割

協働の 成果

誰でも気軽にばん馬の力強さや優しさを体感し、馬文化に触れることができます。

協働のポイント

双方の立場から、ばん馬に親しむ機会の拡大を図り、継続していくこと。



リッキー



ミルキー



キング

帯広市食育推進サポーター事業

取り組みの概要

郷土料理を作る技術、作物を育てる技術、栄養・健康の知識など、食に関する様々な知見や技術を持つ方々を食育推進サポーターとして登録し、学校や地域などで取り組む食育活動時にサポーターを講師として派遣し、地域などでの食育推進活動を促進していくものです。

協働の きっかけ

市民一人ひとりが食への関心を高め、自ら食に関する正しい知識や情報を選択する力を身に付け、生涯に渡り健康で心豊かな生活を実践することを目的としています。

農政課

・行政ならではの情報収集・発信力

・食育活動へのサポーターの調整
・広報活動



市民、 帯広市食育推進サポーター

・豊富な知識・経験を生かした専門的
活動が可能
・多様なニーズへの対応力

・活動依頼への対応

強み

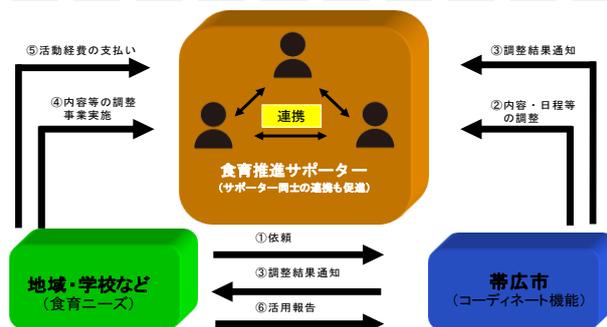
役割

協働の 成果

事業開始以来、市内小中学校、町内会等より市へ食育推進サポーターの活動依頼が寄せられ、多くのサポーターが活躍しています。サポーターの食育活動により、依頼者からは簡単に作れるレシピを知ることができた、食に関して考えるきっかけとなった等の声が寄せられており、市民の食育活動を促進する一助となりました。また、市内で開催された食のイベントに、市と食育推進サポーターが連携して食育推進ブースを出展し、多くの市民に食育のPRを行いました。

協働のポイント

行政・団体の相互協力による食育活動・情報発信



多面的機能支払推進事業 (旧 農地・水保全管理支払推進事業)

取り組みの概要

○農業・農村は、国土保全、水源涵養、景観形成等の多面的機能を有しており、その利益は多くの国民全体が享受しているが、近年、農業地域の高齢化、人口減少等により地域の共同活動等により支えられている多面的機能の発揮に支障が生じている。このため、農業・農村の多面的機能の発揮のための地域活動に対し支援を行い、今後も多面的機能を適切に発揮してゆくことを目的とした事業である。

協働の きっかけ

地域共同による農地・農業用水等の資源の保全管理活動や農村環境の保全活動により、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成等の農業が有する多面的機能の適切かつ十分な発揮を目的としています。
平成19年度より農地・水・環境保全向上対策を皮切りに、平成24年度からは農地・水保全管理支払推進事業、平成27年度からは多面的機能支払推進事業へと継続されている。

農村振興課



農業者、地域住民、団体等で構成される活動組織（以平、桜木、北広野、泉、北基松、清川、上帯広、北八千代地区）

農道や明渠などを保全する取組を支援し、農業・農村が有する自然環境保全機能の維持・増進を図ります。

強み

農道の草刈・雑木処理、明渠の草刈・雑木処理・泥上げ、景観保全の植栽、老人会等によるゴミ拾い、広報活動を行います

事業計画の認定
実施状況の書類・現地確認、確認報告
交付金の支払事務など

役割

対象地域の認定、構成員の取りまとめ、規約・事業計画・活動計画の作成、総会の開催、活動の報告など

協働の 成果

- ・資源を適正に管理することで農作物の生産性向上につながります。
- ・資源を管理することにより、自然環境に対する意識が根付き、地域にまとまりが出てきました。また、豊かな資源を次世代に継承していく基盤作りになっています。
- ・活動組織は、農家・非農家等で構成され、地域コミュニティが図られます。

協働のポイント

- ・農繁期と共同活動が重なることで地域内の合意形成が困難であったり、活動内容の集約等に苦慮しました。また、事務的な作業に手間取り、時間がかかってしまうケースもありました。

協定締結

計画策定

共同活動

地域と市の間で協定を締結



構成員による計画策定



構成員による明渠の草刈り



業者委託による明渠の床塗り



婦人会が中心となり農道に花の植栽

八千代牧場まつり

取り組みの概要

帯広市川西農協、帯広大正農協、帯広物産協会、八千代牧場まつり協力会、市等で構成される実行委員会（事務局帯広市）を組織し、八千代牧場まつりの開催・計画運営を行っています。また、家畜共進会を同時開催し、相乗効果を図っています。

協働の きっかけ

農業者と都市部市民とのふれあいを通じて、広く帯広の農業、畜産について理解してもらおう機会とするため、地域農業者と協力し合いながら、まつりを開催しています。また、農業青年や農村女性等、新しい参加者のかかわりにより、まつりの活性化を図っています。

農政課



地域農業者、農協

・行政ならではの情報収集・発信力

強み

・地場農畜産物の P R

・事前準備、当日における人員派遣
・情報発信（周知活動等）

役割

・事前準備、当日における人員派遣

協働の 成果

地域農業者等がまつりの計画・実施に関わることで、農業者は消費者と、都市部市民は農業者と接する貴重な機会となったほか、地場農畜産物や農業への理解が得られています。また、農業青年や農村女性など、まつりに新しく関わる農業者が参加したことにより、よりまつりが活発化し、地域のまつりから帯広のまつりへと発展しつつあります。

協働のポイント

八千代地区の地域のまつり、また、帯広の初夏を代表するまつりとして、行政、市民、団体が一体となって盛り上げていく。

まつり内容の検討

意見交換会
実行委員会

<役割分担>
農業者等：内容検討
行政：素案作成、内容とりまとめ

まつり準備・実施



<役割分担>
農業者等：準備、農畜産物販売、イベント実施
行政：準備、調整、イベント実施、周知

まつりの反省・見直し

意見交換会
実行委員会

<役割分担>
農業者等：内容検討
行政：素案作成

フードバレーとかし推進協議会

取り組みの概要

「食」と「農林漁業」を柱としたオール十勝による地域産業政策「フードバレーとかし」の推進を目的として、平成23年7月に設立された協議会です。「農林漁業を成長産業にする」、「食の価値を創出する」、「十勝の魅力売り込む」という三つの方策を展開することで、日本を代表する大規模畑作酪農地帯・食料供給基地という背景を活かし、安全・安心な農林水産物の生産や、地元加工による付加価値向上、国内外への販路拡大に向けた活動を行っています。

協働の きっかけ

地方を取り巻く環境が大きく変化する中で、多様化する課題に対応しながら十勝・帯広が持続的に発展していくため、十勝圏としてのつながりのもとに一体的な地域づくりを進めています。十勝の特性・優位性や蓄積されてきた産業基盤を活用し、オール十勝で産業振興に取り組むことを目的に設立されたのがフードバレーとかし推進協議会です。

産業連携室



農林漁業団体、商工業団体、金融機関、
大学・試験研究機関、地域事業者など

- ・地域内外の関係機関や企業とのネットワーク

強み

- ・各専門分野における豊富な知識や経験
- ・多様なニーズに対応可能

- ・生産体制強化に向けた支援
- ・十勝産の付加価値向上や販路拡大支援
- ・地域内外への情報発信

役割

- ・各種取組みにおけるメインプレイヤー
- ・各種取組みにおける支援

協働の 成果

地域事業者等と連携した十勝産食材のブランド化や機能性食品の開発、総合特区制度を活用した地域の海外輸出等の支援、十勝の産業人の人材育成および事業創発に向けた取組み、十勝産の地産地消に向けたフードバレーとかしのPR活動などがあげられます。



協働のポイント

□フードバレーとかし応援企業を中心とした地域事業者等との連携・協力



帯広市と株式会社スノーピークとの包括連携協定

取り組みの概要

帯広市と株式会社スノーピークのお互いが持っている資源やブランド等を活用し、相互の連携と協力を基盤に、地域社会の発展を目指し、共に取り組むパートナーとして、包括連携協定を締結したものです。

協働の きっかけ

平成27年に帯広で開催した「とかち・イノベーション・プログラム」において、山井社長による講演が行われたことが包括連携協定のきっかけとなりました。

観光課

- ・ワールドクラスの自然豊かな環境

- ・アウトドアの場の提供
- ・自治体や団体の情報提供



株式会社スノーピーク

- ・アウトドアメーカーとしてのブランドやノウハウ

- ・観光商品やコンテンツの開発
- ・観光プロモーションや人材育成

強み

役割

協働の 成果

双方が協働して、十勝・帯広のアウトドア観光のさらなる振興目指してまいります。

協働のポイント

□双方の強みを活かした地域の活性化 □新しい観光商品の開発



まつり・イベント開催事業

取り組みの概要

帯広の三大まつり（平原・菊・氷）や、岩内仙峡もみじまつり、とかちマルシェなど各種イベントを民間団体と連携しながら開催し、市民生活の充実や交流人口の拡大を図り、地域経済の発展に寄与するもの。

協働の きっかけ

昭和22年に平原まつりの前身である「平和まつり」を開催して以降、市、帯広観光コンベンション協会、帯広商工会議所が事務局となり帯広の三大まつりを実施しているほか、その他のイベントについても、民間団体が主体の実行委員会や協議会に参画し、運営に協力している。

観光課

- ・ 式典の運営、来賓対応
- ・ 予算対応

- ・ 負担金、補助金等の財政支援
- ・ 企画・運営に係る業務



- ・ 帯広のまつり推進委員会
- ・ とかちマルシェ推進協議会等

強み

- ・ 自由な発想と企画力
- ・ 豊富な人員

役割

- ・ 民間団体間の連携
- ・ 企画・運営に係る業務

協働の 成果

・ 民間団体との連携により、大規模なまつり・イベントを開催し、多くの市民が来場している。（H27の主な実績 平原まつり184,000人、菊まつり26,180人、氷まつり176,200人、とかちマルシェ80,000人）

協働のポイント

双方の強みを活かし、市民・観光客に親しまれるイベントを開催する。



とかちマルシェ



平原まつり

JAFとの観光協定

取り組みの概要

JAF（一般社団法人 日本自動車連盟）と帯広市において観光協定を締結し、観光誘致や特産品販売など幅広い地域振興に連携して取り組むもの。

協働の きっかけ

平成26年にJAFから申し出があり、平成27年3月27日に協定を締結している。

観光課

・十勝・帯広の豊富な情報

・十勝・帯広の観光情報の提供
・PR場所の提供



JAF

・全国に会員を持つ大企業

・会報誌やHPでの情報発信
・Webサイトでの特産品販売

強み

役割

協働の 成果

- ・全道のJAF会員向けに配布されるJAFメイトでの帯広市観光情報の掲載
- ・JAF観光情報システム「ご当地ナビ」での十勝のドライブコース紹介
- ・TOKACHIご当地グルメバトル、オビヒロホコテン2015にJAFブースを出展

協働のポイント

双方の利点を活かし、お互いの情報を効果的にPRできる。

全市一斉河川清掃

取り組みの概要

帯広市町内会連合会の事業方針に基づき、快適な環境を目指す「クリーングリーンおびひろ」運動の一環として、帯広市内を流れる9河川の清掃を、流域の住民がボランティア事業として実施しています。

協働の きっかけ

帯広市町内会連合会が関係町内会や企業に対し、全市一斉の河川清掃を呼びかける形でボランティア活動を行っており、河川を管理・所管する国・北海道・帯広市の関係機関もゴミの収集、くりりんセンターへの搬送等に協力しています。

環境都市推進課 ほか関係機関



帯広市町内会連合会

- ・関係機関との連携

強み

- ・町内会や企業への呼びかけにより、多くの市民が参加

- ・ホームページ等での情報発信
- ・関係機関との連絡調整
- ・ゴミの収集、運搬、処分

役割

- ・きれいな河川維持の取組み

協働の 成果

全市一斉河川清掃は年々参加者が増えており、平成28年度では参加者206町内会、約3,597人のご協力により、7,370 kgのゴミが収集されています。

協働のポイント

- 行政・団体双方が共通の目的のもと継続的に協力し合い、地域の美化活動を推進する



家庭用廃食用油の再生利用モデル事業

取り組みの概要

家庭から出される廃食用油を、市内各所のスーパー等で回収し、ディーゼル車の燃料となるバイオディーゼル燃料（BDF）に再生し利用することで、化石燃料の使用を軽減し地球にやさしい環境づくりに貢献するとともに、温暖化防止に対する市民の意識の高揚と廃棄物の減量を図ります。

協働の きっかけ

これまでごみとして捨てられていた家庭から出る廃食用油を回収し、BDFとして再生利用することで、地球温暖化防止や廃棄物の減量など、市民に環境意識を高めてもらうとともに、BDFの普及促進を図ります。

環境都市推進課

- ・町内会を通じての回収活動の推進
- ・ごみ収集車など市公用車でBDFの利用ができる

- ・回収拠点の開拓、拡充（協力依頼）



市民（町内会）、企業（スーパー等）、バイオディーゼル燃料精製事業者

- ・店内放送等による、廃油回収の啓発ができる

強み

役割

- 【企業】 ・回収ボックスの設置・管理
- ・社用車でBDFの利用
- 【精製業者】 ・廃油の回収・運搬
- ・BDFの精製と利用の促進

協働の 成果

多くの市民が事業の趣旨に賛同し取り組むことで、年々廃食用油の回収量も増加しており、地球温暖化等の環境意識の向上を図ることができています。

協働のポイント

